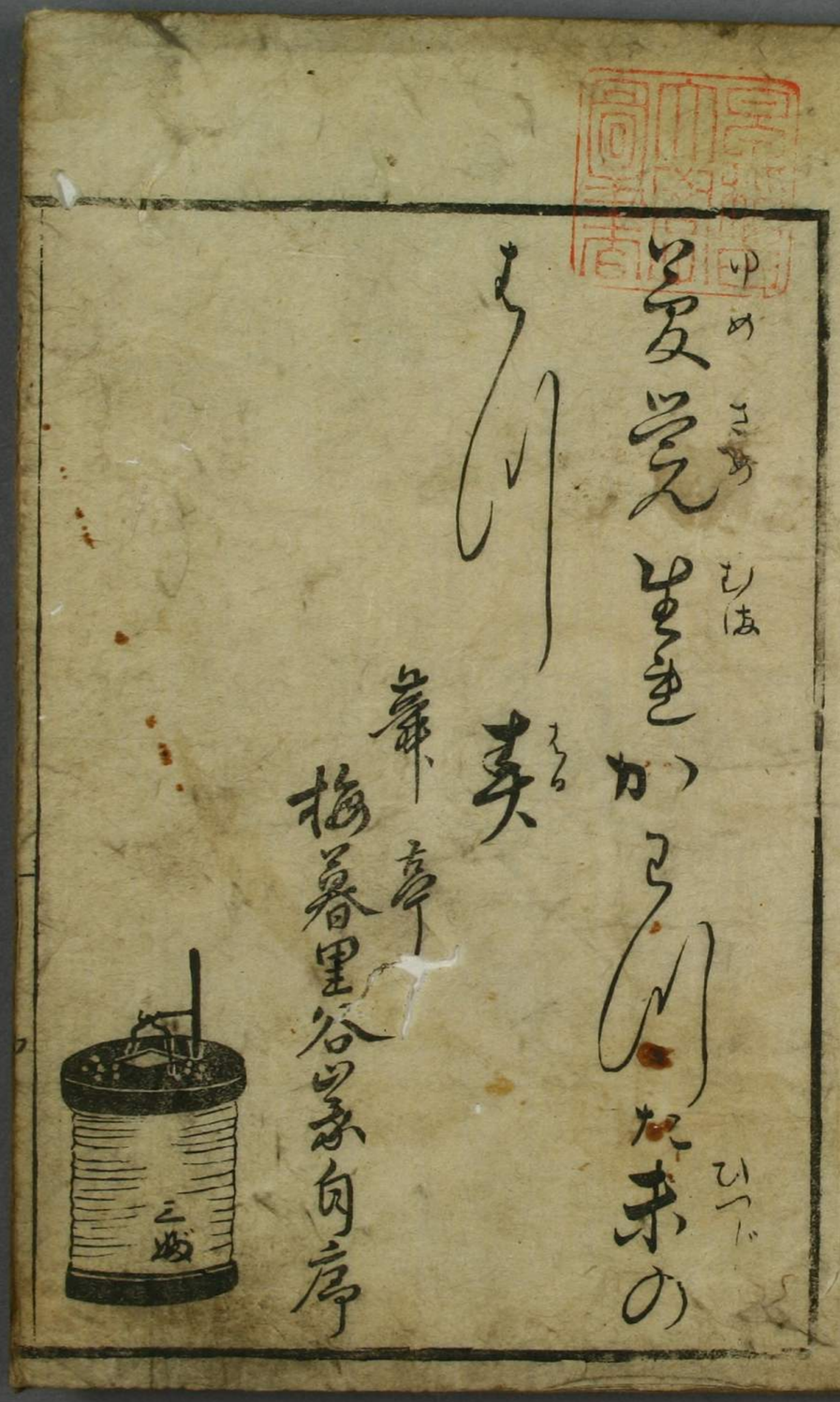
節道後

竹柵乃廓廡

へ13
2847

へ13
2847
旧遠
1984
22

13
2847



目録

○ 巻之一　信宿の生疑
○ 巻之二　將暮の愚鹵
○ 巻之三　功計の赤心
○ 巻之四　任侠の寸丹
○ 巻之五　離憂の苦苑

二筋道後篇廓の癖　梅暮里谷峨著

○ 巻之一

信宿の生疑

客文里　芳下童

何の夏了ぬ初のん一姿もかのうの人の事を
知やうて兵ハ者がハ命ゑく多ハ例ゑ小
声ゑそめうと記ゑ
いくゑ人ゑ云ゑのみでよゑ月ゑのうハ
心の色ゑ毎ゑ月ゑのうハ色ゑるも郷のいたゑ
ゑ合

（ひとハ文里をきりの
りくてい沙考る　文里　アイタ、ミ　野の余情歩者間も
うち捨らるゝ　ものゝ　ものゝ　もの

和り清かがれ申さんして何よふ見もあらかめ人を
其拙か舟よ志つ〳〵まうんかうこそ独の深あるき
さうんもあるそ悔うあとひ申人せうう諧悪申人〳〵げんう
これ色の西縁と聞ふと（又ぎのとあるそ）あるそ人もあるぜうげ
ぜうかる事は如あるも悔うた関もあんゲーてさの水
りを積る思の堅すうり切てもきれ也二人り申ふと
ぞりりを重の義潔で別れまうとぞひあんも其射も
死ふとも筆ての見人張であるそれどそ〳〵だ〳〵

あめ人さうんの顔ゴ見てとまいてそれの悪〳〵あるも
文里 八テ清水寺りゆる物うこのあらふ〳〵ふ第ひとりて
悔て居るよりあ事をうみゲ今ふ通り聞ふうと
舟を責るも乗うり紀のきるだ川うんでこう
さくさりんの三つまる振り有れ色ふ第ひとりも
ろ〳〵い世也三津の川もふを引いのそと濁
りでつるそりさ 下重 ろんであそう人りあ沈志れて
おうんあ人さ人 文里 ア、だう〳〵〳〵今元りあんその水

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又も[illegible]

[illegible]

新道紀の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まくらをひきて八潤の夢花の香を
ゆめ

花の香 世一八夢ていあんせの人 下重 ナニいんおこ塞でだろう
あでであんせ 花の香 そよでもあせうえとし 矢里さうん
潤でも春で亂をおもてしてあんてかハ 海世の亂ハ
色〳〵咲いまを 矢里 花の香さうんおんあるい
顔をいのうもるものんでしく 下重 年八三年をも
なのおれるまで何うた法事影よりあり日小

なのう世法ようなるのを心あるこうよそーるく苦労を
こうけるもんまりあるもあるとりは法もこのまい無お
めの仕方おうとアおんでだろういるよ 下重 うんであそ
ぎうう中 亂の毒ごり でんなんせ亂とそもその
こうり 妙よこ抜ものを法なこうりそのかるも
なのく一ようるく無世法よりいまおめうんを妹と
動も 廓のうくんとうよ思りてありうせ 花の香 あの人
きんでうは他人ごゆしいりんの事であそもんおかん

さんこ法をらふる時多も四面でも角〳〵彩なへ一た
事もいつしかしいなかの人さんなり文墨
さんなり初つしよそなしいなの何事小蒙ふまれ
更て志ゝ事素ざく孫紙紙なる屋いせんらつあ関ておらん
せのんしあ市さんのさ子しいそうなどの板を大路も鄙の
合ふた法まるなるふしあれも月夜なるくふ事のつなるる
一下重さんの客るふしうへぐふ他人ともおそふ無ふ
何の和のきしあるるくなるなりかしまふそ

白茶の二面しの板ふ何ちそしかせとふふそふ
ふていまふしいあでもこ事や何の市さんの心ざしば
あふふマアあの今さんなあふそふしいまふ
ふやしいせん蛙しふあふ安板ふふふ世活ふ
ふふいふも前世と屋ふふふの約束でもあふそば
マアふ体の世ふ思ふを送ふふる事ふと思人をそれば
若号しふふいふ

[文芸書] ハテを廉らしい思ようけふふい
ふふふ色ふ小茶ハふふ [文里] 市さんの男茶

あめ一の實来死でも志八志賀ハ嫌いせ　義春　まさ坂ら年の
えを思ひ出して少し紀ん〜て八ヲ子あせさ河の〜
一ツ呑イせ〜て
側よりうあ〜ん兼鬼引き老く敷小志切つる
呑文里さんけいせ〜てさて
義春　まづつてきいせ〜收　文里　まるこ多ろ少　義春　ふ老めん
ざ〜ら紀づるさんやだ色ろのみこ〜ろをしで
ふ〜ら收へ文里や河せろいせんまれのちそど少と

出ゆく孤ろ大ゆさき文里ハ〜けし酒とのそん
として出せる

文里　ヨホンく　下重　ざれもおーい、志いせんと資中と　文里
とものの無うらのんでくる里や　下重　十老とのも　文里
河のそのきの実をうんぶ
酒ちさ〜ら如弁るもし〜少て鮒ゲ一つたいンとろて
世話と屋く世前流とりあるる八所でも老
ところ海とくぎ川てつるると八ごひなかく兎角小

屋うち掃きくはしりをきくもとり奥にて
けうとんで面白くなるようとろてんぐ
おもしろくもくるおとひとりのねんのう
コア常ごとのアノるのうち蓋頭影造とかぐ
有るものう人今ともさしあるもの事もいのあるしてんぐの
家のり世上金も身よりかたきもんじ二人ぐ
苦労をさるを乳くきく浜抜ー工面ーて
ちるとつ六山うら罪のたとえのごく思ひよりく

いちもんと羅の強ひもの人の事
花の番ちんの事いぶひ屋ちんなんぶ二階中
でもむりかりて弾を書る物なく色内親
の屋うちまて分うけて世話をしてんなつ
ちんこ人の世話をしおもしろ身をおもしろ
今ぎやうもぐうしいとなんもおもしろ今中の
町ちもおらん四身少引廻て居いまを戻きを
若い家をヤレ雷もんの帰ずれ何のとあーいて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

京ハ清水まをもしながらも二方野郎ゝとゝんる振ふ
おもあごりゝの笑見もいるしもぜ心つゝるてゝ三度ふ
二度ハ茶やで酒ゝして[illegible]ふ[illegible]のゝ中の
町ゝも出られぬ身よゝたゝ[illegible]もでゝぜこの
けんとゝ[illegible]ゝまでゝゝき八事ゝゝゝ
このごろハだいぶむずゝしくゝゝゝゝ
見形ゝゝゝ者ゝかゝらそゝで問もゝゝし
ゝゝの内でゝゝゝゝゝゝゝ

それゝゝ[illegible]ゝ者ゝ[illegible]も河もゝゝ
ちでゝゝゝゝゝゝ酒ゝゝゝゝゝゝ
果ゝゝゝゝゝゝ者ゝ[illegible]ゝ
ゝもゝんゝゝ形ゝゝゝゝゝゝゝゝ
[illegible]ゝ[illegible]ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ[illegible]ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ら出て行 下立 何うた来のつきるる所なあんうの
人一倍せり何かおろさ張さてあるいそのの
ようかう苦くせんして物ておうんなんまの
玄関不でもおさうしやくくまが式百のも
あしやいた指そんのるも大方ハでさいせう
別でさるとちいとハうおそこの全で二階の
備をこうる対いやうかのさんもちいと拵ておいで
なんしお鞠のちんくうをるく

志いそのこのうに鞠まあ出ちんまの
寝ぐびもこりちをあるしさんしなこぬまを
るハなういせん 文里 ゑ人 下立 まるあ時さんのる
とあとひあしなんしたのの 文里 さんの色まのい
やるる時ちよ切て行見ぐびこあるに 下立 そのあ小
ゑ者ひれん事をしなんしてもいるこるまて
あそ志のし淡さんやあるうさんとひとうなるび二人
まんかるこるをなしたあ武うんと

中その美意の美意
るとしてもなんぞそのうつ者
らぞ切もあんぞ 切もあんぞ 文里 大さぞ
てゝござゝ思うそ それとこしらまる仙のうえん
なる者なさぞ世ぞうも出それとこれしてゝ
物もうしろ 下文 そうぞこしろしゝだそじゝ
ものゝ 文里 ぞなるものゝなるるよ 下文 そんぞゝ
せん 文里 なるゝ思ふまゝ ゝ人今そしてそれろと

そのうしてゝこそうても
なんでもあんぞ おぞ 勝さんのうぞゝおぞ
せんのきそのうなるとをおそゝ川そ死
こゝと例は有ものの行りゝ ゝ 文里 この家ちがいのうそりを
まるは 下文 ものんでもしあおぞおあゝさんの世治りを
なりゝせん 文里 ゝこの世のまゝとゝあまゝぞとちがさをゝ引
家せる 世治りまゝとゝおまゝとおまゝぞとちがさをゝ引
そ川てうお世治りゝんぞ家よりのゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つよまじみくびられて色〻なのきんいるをとりまてて
おもく〳〵なぐ口ありいとれとてつかが男がでさてさうだ
うん者物をきく〻無ものもてんしてそうて
吉の
知者の
ぬ〻おもく〳〵さうんが私どもの服くく〻ぬてもそのうんて
是ぢ御よりなんく〻きさいおもく〻さうんひとうでハおく〻ぬ
いまいまいすぬこで役源の中者やのありいせんん
きとく〻格さうんとやくく〻男うも者ん〻きつかの
ぬんくのら色いまの物でさうんも
文里
そんでもいろいろ

おもく〻ぬさおもきさうんのなんのをあれう心
ぬ〻ぬをかーをつきて物をきくまさしよ
きれうきを思つていろ〻なきをきとくつ
吉の
モシ
なんのきく〻いきぬやのおもく〻さうんのまう
きあてさうんも
文里
イニきもの中〻
下を
行う者
〻〻おまく〻
文里
何やく〻いく〻あやく〻ハ
下を
いきて
きの無きんそのきつかの金の
きり中いまて書野さうんも三川とおてきんも

きりとおもふ人もあれども一たう無しと角
おもひのよきやく人ハいろ〳〵せんぎをし
てせまるハぬしのるすにてゆかしんきも
いとせつなくいそぎとはいへども海くきと人にて
ひとりも訓導にとられてハおもせんかたなく
そもそも何しによりてきハおもせんかぎりハ無しの
事なりとてあてをあてをおきつまりしん
らるるとうにハうきらしてきのふ[吉の]一ト宣

きんにんよりおきんまをまりる流がこと事をして
いまハ何もるるこのへなんてもひとり
るるこのそしくおもひなんをひふくうよ船まる
船のるりこうるのるしくおもひ来ハおもんをうり
でいきんぜんを強いも強いつるるるふてさうんを
それもそのうかて今でハいろうなんをひのこ
もでんをのもしきりとハおもうせんの海い強
でもひのよりをなんでも申事ハるふをとを思い

中もあるそうなれ[illegible]たくさんたのひろ
ひのまえにまいり
[下之]そのうちのうでおまきあれて
ちょうずでハおまもせんぬぐちかしらのもと
てをのばして小脇をたて打撫をなんまちかて
[illegible]よりなる牙なるゆ死ぬ[illegible]ようがまりておまち[文里]
ゆれんなりゆんな横車をいて[吉の]ハテ[illegible]金[illegible]
そんなようハ弟らしい口吾をあてて[illegible]ようの方
のもちんを[illegible]くそのうて[illegible]ゆのなん

[下之]私ハそんあそひくまがこんゆんれ[illegible]てこうこ
あそんよハあそひまんせんあるを[吉の]ハテあるいるもの
あくまもいるひハ初そんでこんまるよ又文里こんも
ゆもれもれ葉も[illegible]をこくしてゆのあん
あ[文里]ゆうがあんのうのとうがてこうをたてせる
うくいまいまくあるうふうがもあんうのまよ
あるも[illegible]の毒ば[吉の]アヤこうふいゆ[illegible]金あ
[illegible]ふ引ひそんぶうふ仲人ハ[illegible]あのとまい

[illegible]

[illegible]の八橋元の屏風を建て[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

やろうハきるさう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さんのふとひとりあるでおまへ文里さんの男の子いをとく
ぶつてつきぶまをしとの志さ心ておまへ私らより若者で
そのくらゝおるやハまゝじゆうゝ志川てありいまたとゝごの
ようおるやグのつても酒て居ハ思ひきゝゝ出こいもん 相 イヤ
あれもいのうれてお屋そしと庵るやおゞりうろて雷と川
荒がまごつくゝぜあるを能てんゝのまさと八つぞら屋の
実も小屋出も出とりあ実ハ一ちんとおまいとさるこうる
屋と金金とりあ実ハ一ちんとおまいとさるこうる
りうれ出るあのこハるる屋の

このりあまを 文里 ゑ家ごそりあのまこがるまいのおそさんの
あくいくるるふあれもいりまりゝ連ていけとさうゝ海を
あつてあれをこまらせる 下注 ろんであまをこうるいくのよ
さんなるふうんやまりでもあくこのりていりさんを
ようておいてなんゝ 文里 ゑ家ごうてなるよぶのうふ
このーたこのる物をこのうりりひんとうて 下注 なりんの
うりでおまをと被を 文里 ようや 下注 さん者帝
こうるりをこひりりんゝ時いせん 文里 こうる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のるそのの[illegible]の[illegible]（今を三文でも[illegible]）
まのあれがいそをこさてでのろか者 下手 ふくこ[illegible]
うふかそ者しまのん

隣 [illegible]のて文墨 エヘント 嘆くとして一下手少の
しる

指 コアるを和ろ者志てこやふだうのろく者ゐう
[illegible]といれらまんすもるを和のろるるれ（で
下手 ハテ 被[illegible]とうハ[illegible]ハ事をまるこりも

たひうり心と心の[illegible]ひふとをこ[illegible]るハあまもんる者 指 [illegible]
その[illegible]まる心とこハ[illegible]をこ[illegible]くゞ高貴ぶ物と何のそこある
物の 下手 そんあらあんで[illegible]ろとつまんまのの 指 イヤハ[illegible]あっ
心[illegible]知あふろし[illegible]ハ[illegible]（[illegible]
こ分ゞうるあるを一寸[illegible]
るりハきふとゞんまるろくの[illegible]のこ[illegible]
のそんぶまるんそしありこ瀬ぶらんハ二[illegible]流の[illegible]
[illegible]の也[illegible]をそ[illegible]のげてあゞ[illegible]

下京 いろそめ 指 あぜくろ 下京 ハテよくさ 沢あり ぶこそひ
小くしあの きんこそ 吉 出るを おあ 新 しくしまで 勤
をきて しがきんでの 稲 よくさ 沢あり あとや 何 まりい
せんたくが 三つ 出 くれ 指 何もそだくを きて 活 ハ
出 利 のそぜんじ 下京 ハテ よくさ てきんし 都 西 盟 を
きつ のたひ 心 をくさ ゆ きの 中 て 何 る
し 何 もこれて あ ん 個 ぶ あんの のとぶしん
まがくさ 利 もり の 指 多 あがん 俳 くさ

ても 百一 のる が 首 附 後 ふ 無 け を きて あの 出 げ 更
外 分 が る ハ 下京 それ て も 今 の 出 ん く ら あ る る
こ ま の 面 に 合 も り い せ ん と 中 と る 指 合 後 出 く ら
と て こ て の る て ハ る ぞ り ハ 出 通
一 下京 ハ き は し 指 さ 沢 一 指 ま も 都 更 仕 き の 客 更
出 て こ て ま の ん と 宮 後 ん し だ 更 き の
髪 制 を 何 ま り く ら し て 何 も 猫 る ま で 指 ハ
何 て 指 を き く ん と せ ま を

指 [illegible] 下さ 私の心の一まで [illegible] 指

第一一て 知らりけ [illegible] 指ハ [illegible] 指

[illegible] 方の指をかくこと [illegible]

るもの [illegible] 毛筆の髪のとき [illegible]

処ここ [illegible] 又 [illegible] 髪 [illegible]

[illegible] 外 [illegible] 下さ [illegible]

指 [illegible] 下さ [illegible] 町 [illegible] 文 [illegible] 書を消て

[illegible] 名を [illegible]

隣座敷 [illegible] [illegible] [illegible]

る [illegible] [illegible]

人の [illegible] 指ハ [illegible]

[illegible] [illegible] [illegible]

[illegible] [illegible]

一年ハ [illegible]

下さ [illegible] 紙も [illegible] 私 [illegible]

[illegible] [illegible] [illegible]

[illegible]人の[illegible]年久しく、[illegible]
私ゆへ[illegible]ハ[illegible]合ハなんしたいとて文でもあんそく
らの無義理ハ[illegible]
何とおもふ[illegible]

隣さま[illegible]
悔やらぐいつのもぐ[illegible]
何のざんせん

[illegible]

[illegible]
まんなうしてもはとのるハ[illegible]
谷鄙の[illegible]の二筋道と[illegible]
処くら遊ひ[illegible]
で[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]人

陣屋敷 文政 サアく こゝのとつゝ〻 嘉永 その頃よ

呑なんーて八ヨりざんせ

二年もむかしとよれたこゝ陣の屋敷とも

ようこうの頃よりさるてこてるあらう

下定 いやらしいるゝと世人のもてれは若男ともこゝて

おつうんなんーー 推 二年間の頃しうもまちの弾て八おれ新

一度こゝろて八あんが行のんが男ても用捨八ようは男抽

いしまあよたれあてこゝ

下定 陣屋敷 おのーー 嘉永 おのーーー

つ者でおもすれば人なり私なり心のもの也
とをいひ合ふ事もそこより
おもせうつる者 [横] 二のもそのようなりよりだいたてをまる能と楽
後世の乱れ也あり夫婦てき者ばいのうちも此事あ
ハ事てやうの幸こうんやもきそいる根ゑ心のもの合
様よそのようなる心づひ出る事ハ也事の能ハ清ゑ面
とを名や悪倉跡だふけでうんとの新ハちとぞう
ようやアでいハ也ぜそして女房みさこ所ハて

まれとたうは妻庵絵居の時ハやうがのあ能
わるぶせ何も教授をとるよりよこてあ人ゑ重るるもも
也ゑ又新をのこるも何ゑ
一ゑを臨終こゑ一ゑやしゑ旬よ合の
るも何もあるうれ

[一ト言] 三月ゑ文ゑをうんのるゑれだしてそれ能おい
合あるくまよりいせんさうハ何もおのこ一トるもあ
せん文アをうんの男のるいまあ財うんとうあうみうんや

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さんのふとひとりよがでおそ文ひさんの男の長いとうく
ぶってつぶさせくとのきさ心っておまやせ私ようなる者でも
そのそぶおるるハまじめりくきりてありいまたとくごの
ようおるるりがつつても浦て屋ハ思ひきくぶもしん 指イヤ
あれもいのそれてお屋そとと庭るおがりうろて雷と川
荒がまごつくぜあるる船てんくのまさとハいるるら屋の
密も小屋密も密とようる密ハ二ちしとむさいときもしつる
屋と金金とよ家ようれ也るあの心ハそるる屋の

抱る男ようハ指るハ蓼屋密ようるでとおりて屋
嘗ようも密も主紀ぶぶ屋もふびんやうだくさくある
ぶろまで 下注 ちんとでもいてあるんよいるるとと
男ハ脇ぶ立ぶ文ひさんのるでいるるけとおるやまる
このようとのようおつぶるるぶ有てもつぶとるちんも
おしもちんぶだうろて男の死くいきいやう 指 モウヤグ 蓼
男ひうつてもだまも西いて行るるハそよ指指まるあよ

下注 話のるハ立人らくくあとんでおろんかんまあん

今ゝ通りかさゝ男の為よりどころの若衆のさ
のしらでおそれも
かくしたあしゝ文ヒゞ方（りー）が嵐藤
茶代のまゝ（ひ）ものをこぶ（ー）ひもおくヒよ
新ちん合て
文ヒ なんのるい 下ヒ さらの三ゆ（ー）いるとちゞう
きゝ男ゝひもあたつおいるあゝおくれだよ
おそした 文ヒ ア、たゞさう（やうまゝ）ゝてる不今度鍋り

ゞこゞるとゝ色あのきろてる派ゆいきゞよきてゝよあのゞ
ゆまれだゞ二階もうん屋ゞ只おさあゞ（一云ハ蔵ヒ高 後ヲも後ゞゞ）
まもだゝ別のるしらあもきれ無陸ん色のも屋でいて
おれくるとも何もひんゞるゝハ出ゞさつおれゞ有ゝゞ
きとゝもゝをまゝをハゝあゞ紙素とおこーて有ゝよ
よコレそのゝよゝ蔵ヲをゝ注てハるん又積よさゝよ
ぜんゝ色あのハ高才でゝるん出がのゝゝゞ金とゞゝ（ぜす）
ろものお医者の九業ハ毒ゞよ毎日呑よゞよ 文ヒ 注あゝゞ

アイ、それでもこれで志ゝ[illegible]ぬもできやうね

文ア　ハテ　せうれるくふぎやアて〳〵来をつけるる者ハね（又

一寸角をたるくふでいろゝて思ひのこねぎあしもごあで

来ゞ来ゞ来ゞ

高繩くさ和東雲の鳥如き隣ぎ――きる

ふとたるく

[illegible] ハイ 指 [illegible]

出てうち降る雨こうし

穿口　任侠の寸丹

下京八今八文[illegible] 引ぐいと三――さの

つとりて積とりあこの坂八ろりく[illegible]

うくふりくと人[illegible]

うくりの[illegible]

志[illegible]

日[illegible]

[illegible]

[illegible] おてん（式傾博実描の中[illegible]八[illegible]の形板で女

[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]
ちゝとつゝもまんまるなるものなれば
おくゝゝありいまゝゝ思ひあんせ
で、おもせんがあり御ゝゝを聞もゝ
まんせばおもんのゝゝまゝ実よゝもておんなのまゝ
聞ゝと申ゝ申ゝ何ゝでゝゝゝもでいおもせん
ゝ私ゝゝゝ文ゝさんよゝりゝゝゝ申よゝ死ゝゝ
覚悟ゝきゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝ一度お目ゝかゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ申ゝゝ私ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

千万
医者でも久しぶりの下手
うまでおもて亭主
てこの
世の
おもあれば服
おもしろ人ちんで思ひ
角のこ
ぜいうげんよまるものでも
あるの
あくこんかのけでこ

あるとつぐ
ぶ八
ら尽てイフ一番の
てるも
部屋のよ
まり八
外の女郎
のでーて
の者

[illegible]

[illegible]

[illegible]

銀和なるくらゝ貢でいのげて人すもごこよどやーそでんな
人うも新はちゝづ心とてあてるを寒三郎分女房を
くゝ多のがよの拙ーさうても遅あさしも志の人ゝ中の身ーて
世間う海也肯の分なくゝでてのげ毒とてやるも
きゝよりー人りてもにを屋ゝきはだなゝ無時義多あげ
を延ゝうゝ和が屋ゆきハでさげ三でのぼりハ代世で
そゝ色を志ゝむゝ別ゝまのりゝ時のあげさ一人りや
二人りのるでハ也ぞよ又ひ合て二人りなて死で

一和ゝうとこがアノいのぶ和遠のよゝ人を心ひ形知のうゝの
るだうゝてゝ書物の又代世で形業の死ゝとゝ多ゝ也ゝを
おくゝゝで半既ゝ所とゝうものかゝ引げらをいゝくのさゝ
引ゝ多ゝ心屋の井でゝ志ゝ無ゝ多ゝくゝ中ゝ時多友
ざゝーても書信てゝ無ゝる者の多き地獄の信屋ゝうちで
おゝゝを、ハ不多ゝ遠ゝが多ゝ刑ハぶゝくゝ無ゝていゝのゝ
ゝくゝ代屋遠ゝが有ゝうゝる物ゝの文ゝさんゝうてゝうゝでゝ
ゝるゝでもいのゝ多ゝちゝと新影流の服ゝを海ゝる拙ゝ

きりすとえんの寺のようもまふ事ろよ又ゝ時ゝ
ごとゝかゝる縁あらもせうとうん事をあこ
さまびゝ系をとり重ねて病とゝやくゝ死とと
きめ重だもの苦労前のうと又重る事の苦労
都合ひ金をうげでゝゝかゝるゆゝ面白ゝく
寺住ゝ者美人とあるものゝ方ゝゝゝ
思ふれもいるゝ重ゝ重ゝゝ多の四角ゝ
いゝゝゝ年寿ゝ紙ゝ今ゝゝ作文も書

この寺住ゝ者美人文さうんのるゝで年寿を入
る者この寺和ゝとおゝゝ文さうんゝも一通ゝ
客人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
だゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
出るゝ多ゝゝゝ動ゝ
あれゝ心れ墨ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第五　離憂の養龍

一ト言、医療をつくせどきざしいつぶぶそ
日増よりまさる病の進むを食るも文里より
弱し和と雖も未だ一口汚くもとる箸のきさえ
そ、絶て人のひんりもあるさ中うも文里の
るの所業よりもまさる遊ひ小や

一ト言　文里さん私も一和よりいせうと　若のう　おそ人
何ともあるまじき文里さんハあんせん物をそ今ゝ身を
とゞめるのみと粉身のよりそれ不ん[illegible]その

極よ人さうのまつよりあんしてもえさうんのるとき
ひ強てあつでなんまこのこと
月と中よ流都せいうもまよこふあさ
吉の　あの人をうそのよりよ流てだつりいちんーていうて
病人よさうりいま少アレいんあよ河うちんまう文まさん
よあんでまる必指うろそのるいそうでさうんまと
花のの　折うく流人とあとくまてもそまこあるくさうんがその極
流かんまを物をそうくらまこいせうだうでこせうたうふ

流きてあうんあー　旦那のの　旦那さんも人る服もうるふお
だ河のくふよ思っているるちうりとでもそコー
てやってくといなんーたせあて逢ノ極よ恩の河る
月　文まさうんよ河るまくと代月中うふさーちうんまの
玄ふもいあうふお　月まよよ文まう陽家
ようふ連立て急ままだ急て一手が形ノる
風の使りよ空しーうとやこそ神あふ無まの
ちまこがく一用月るよう物ともいうろ寺でし激よ

くるこ（おもはぬ）くとも滅をあさく

[吾の] 文さうんのおいでなん者ことゝ

あるんを物がうふしうつと素ぐそうとなんを者も

者ことゝ思ふくあるてもあんへ者よ [義のつ] ハて（ことゝ）（あてゝ）んへ

文里さうんがおいでなんしたゝ

いあ者耳よさこそ河ちうく見ハ思ふ極

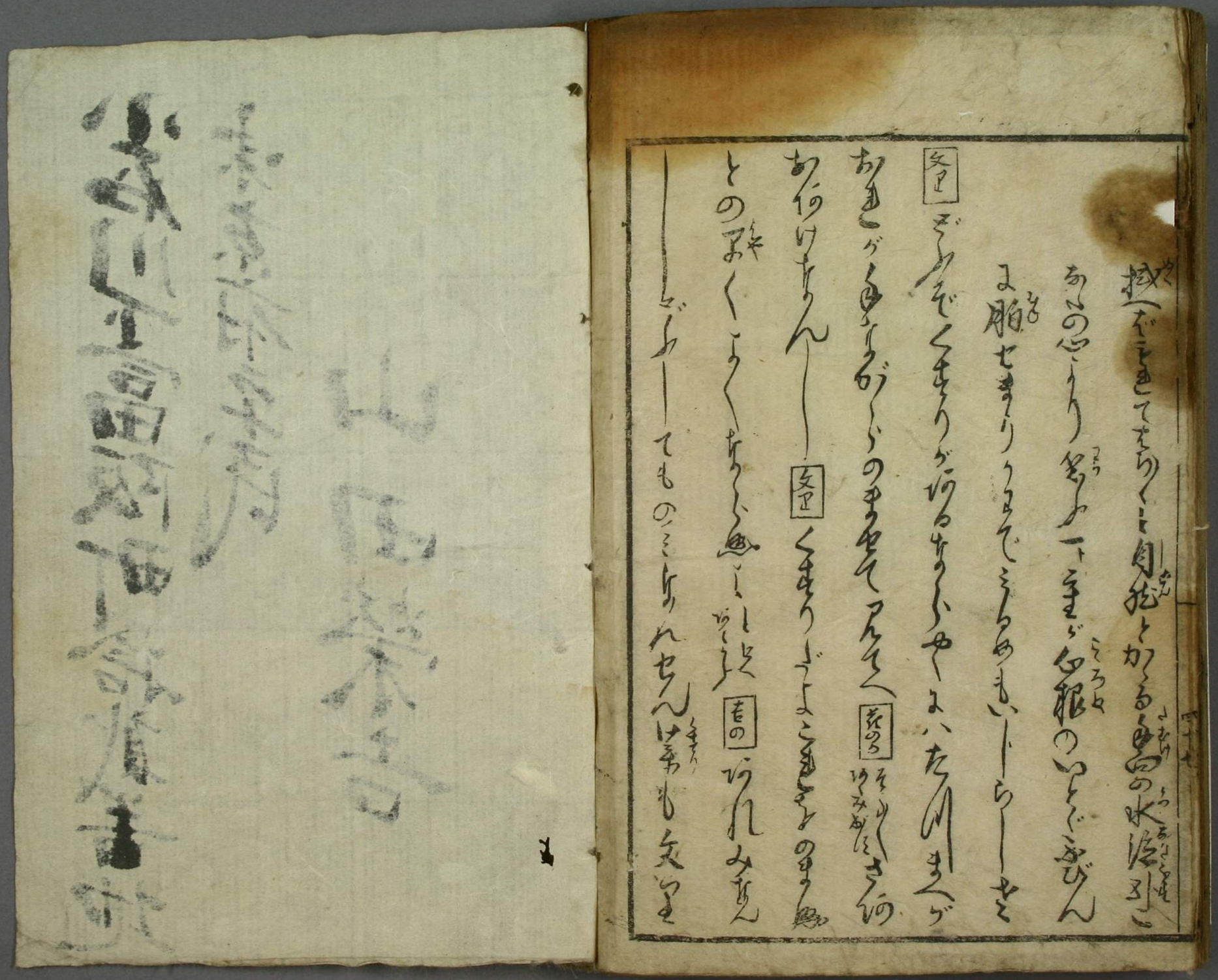
ゐ文里ハ例（こゝ者）て

[文里] コレ あるてゝよ文里ゝよ アア者きけ也極ゐハ者て

[義のつ] ハて（ことゝ）（あてゝ）んへ

[義のつ] 河ちうくゝ者ハ思ふ極

[文里] 河ちうくゝ者ハ思ふ極



拔(ぬ)きてきりくに刎(ね)たかるる鯉の水泡引(ひ)
あとの心ゝり釣(つり)ものか一ト手まゞ四郎のいとぐ釣(つり)
よ脇(わき)せきりうきでうるあもいーらーせ
文[illegible]ぞんぞくまりがかるもやよハたれまゞ
おまゝゲ魚ゝがゝのまるもてんてん[illegible]
おかのけちん——文[illegible]くまりごよこもまのまん
とのおくゝうくゝちゝ魚ゝしゝ[illegible]吉のかれみん
——ごかーーてものゝちんけちんはまも文[illegible]

小石川下富坂町拾貳番地

東京府平民

山田榮吉